

« トランジションエリアに関する用語 »

- Tr (ていーあーる)  
トランジションエリアの略称。または、単にトランジションともいう
- T1 (ていーわん)  
スイムからバイクへ移行するトランジションのこと  
スイムフィニッシュ位置からバイク乗車位置までがその範囲
- T2 (ていーつー)  
バイクからランへ移行するトランジションのこと  
バイク降車位置からランスタートまでがその範囲
- セットアップ  
トランジションエリア内に、バイク、ランシューズ等の競技に必要な準備を行うこと
- トランジション オープン  
トランジションエリアが開放される時間、または解放されている状態のこと  
この時間内はトランジションエリアに入場でき、セットアップ等を行うことができる
- トランジション クローズ  
トランジションエリアへの入場が禁止となる時間のこと  
この時間までに全てのセットアップを完了し、エリア内から退場しなければならない
- 乗車ライン、マウントライン  
バイクに乗車できるラインのこと \*1
- 降車ライン、デismountライン  
バイクを降車するラインのこと \*2

« トランジションエリアに関するルール » JTU ルールブックの第64条から73条まで

- トランジションエリアはコースの一部であるため、選手以外の立入は**禁止**
- 大きな荷物はトランジションエリア内に持ち込まない。荷物預かり等を利用する
- バイクラックにレースNOが貼ってある。レースNOが見える側にハンドルがくるようにバイクをかける  
※周りを見て真似してかけてもダメ 周りがあるとは限らない  
→ 不安な場合は、必ずトランジションエリア内の審判員に確認する  
→ 間違っていれば、審判員によって、レース中に戸惑うこととなる
- 更衣は、更衣テントで行う
- 上半身のみを含め、裸は**禁止**。また、シューズは必須。裸足での競技は**禁止**
- 選手であってもトランジションオープン時間以外は立ち入ることができない
- トランジションエリア内では、バイクに乗らない
- \*1 前輪の先端が乗車ラインを超えてから、バイクに乗車する
- \*2 前輪の先端が降車ラインを超える前に、バイクから降車する
- T1 では、バイクに触れる前にストラップをする。T2 では、バイクをラックにかけてからストラップを外す

« トランジションエリア内のマナー »

- ウェットスーツは踏むと滑り、転倒の原因となるため、通路にはみ出さない。またバイクラックにかけない
- 他の選手の後ろを通るときは「うしろ通りま〜す」と一声かける。お互い**安全**に気持ち良く競技する
- レースNO、ボディNOは、バイクをトランジションエリアから持ち出すまで捨てない。消さない
- 競技終了後、トランジションエリアがオープンされたら速やかに競技用具の片付けを行う

« 横浜大会情報 »

- トランジションエリアからスイムスタートエリアまでは約400m ある  
→ 移動する際は、なくなっても惜しくないサンダルなどを履いていく  
→ 時間に余裕を持って行動する  
→ スイム終了後はカーペットの上を裸足で走ってトランジションエリアに向かう(歩いてよい)  
ただし、スイムスタートエリアまで履いてきたサンダルなどを履くことはできない  
→ 競技でメガネを使う場合は、スイムエリアのメガネ置き場までメガネを持参する
- グループ、ウェーブの構成が複雑なため、自己責任のもと時間管理をしっかり行う  
→ 昨年のスタンダードディスタンスは、4グループ、10ウェーブの構成だった  
スタート時刻は7:00~9:50とかなりの幅がある
- \*3 バイクコースは6.6km×6周回なのでサイクルコンピュータは40kmを超えない。周回数に注意!

« その他補足情報 »

- タイヤは適切な空気圧の状態に保っておく。真夏の炎天下ではタイヤが膨張しパンクすることがある  
空気圧の計算方式 空気圧(psi) = (0.726×体重kg) + □□.□□ (タイヤ幅によって異なる)  
20c…63.33 23c…53.33 25c…23.33 外気温25~30度を想定した数値 0.1~0.2程度上下させる
- バイクに不安な箇所があれば、バイクメカニックを利用する
- スペアのバイクリアエンドを用意しておくといい(リペアハンガーでも可)
- サイクルコンピュータは必ずゼロリセットしておく \*3